

50th
ANNIVERSARY
50周年記念誌



消防



十目町地域広域事務組合



発刊に寄せて

十日町地域広域事務組合
管理者 十日町市長 関口 芳史

昭和 47 年 4 月 20 日、十日町市、川西町、津南町、中里村の 4 市町村で発足した十日町地域広域事務組合は、翌 48 年 4 月 1 日に消防業務を加え、本格的に業務を開始して本年で 50 周年を迎えることとなりました。

この間、平成 8 年 4 月の松代町・松之山町の構成団体加入、平成 17 年 4 月の 5 市町村による合併を経て、現在は十日町市、津南町の 1 市 1 町にて消防業務、広域行政推進事務、家畜指導診療業務を行い、圏域の発展と防災対策に邁進しております。

また、平成 28 年の消防本部庁舎の新築移転、十日町病院内における救急ステーションの設置、令和 3 年の十日町地域防災ヘリポート運用開始など、地域防災の強化のために様々な事業を行ってまいりました。

組合発足から半世紀という節目を迎えられたことは、ひとえに構成市町、組合議会をはじめ、圏域の組合行政発展に御尽力いただいた皆様と、ご理解とご協力を賜りました地域住民のおかげであり、心より感謝を申し上げます。

一方で、近年は全国各地で自然災害が激甚化しており、畜産業においては、担い手不足、防疫対策など、対処すべき事柄が複雑化しております。

このように変化の激しい時代にあります。組合発足 50 年間で培った経験と実績を生かすとともに、関係機関との連携を密にしながら、これからも圏域住民の生命、身体、財産を守ることに強い使命感を持ち、その役割を担ってまいります。

今後とも皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Index

十日町地域広域事務組合 50 周年記念誌もくじ

発刊に寄せて……………十日町地域広域事務組合 管理者十日町市長 関口芳史	
十日町地域広域事務組合の概要……………	1
十日町地域広域事務組合組織機構図……………	2
十日町地域消防本部・署……………	3
南分署・しぶみ分署……………	5
十日町地域救急ステーション・城山無線中継局・家畜指導診療所……………	7
十日町市消防団……………	9
津南町消防団……………	12
歴代の長……………	13
十日町地域広域事務組合 50 年のあゆみ……………	15
災害の記憶……………	19
救助技術大会……………	23
緊急消防援助隊……………	24
50 年の変革……………	25
発刊にあたって……………十日町地域広域事務組合 事務局長・消防長 服部勝志	

十日町地域広域事務組合組合章

(平成 5 年 4 月制定)



円中央の 3 つのデザインは、事務・事業の「J」、十日町の「T」、地域の「T」のアルファベット頭文字を表し、事務・事業は管内市町ですべき一部事務を当組合で処理することを意図しています。

また、楕円は地域がスクラムを組んで連携強化を図り、外側の円は地域住民生活の安全と豊かさを守ることを表現したものです。



地域の安らぎ、平静を願う
「鎮」の一文字に託したもの

題字／宮澤嶺彩

十日町地域消防本部・署エンブレム

(平成 20 年 4 月制定)



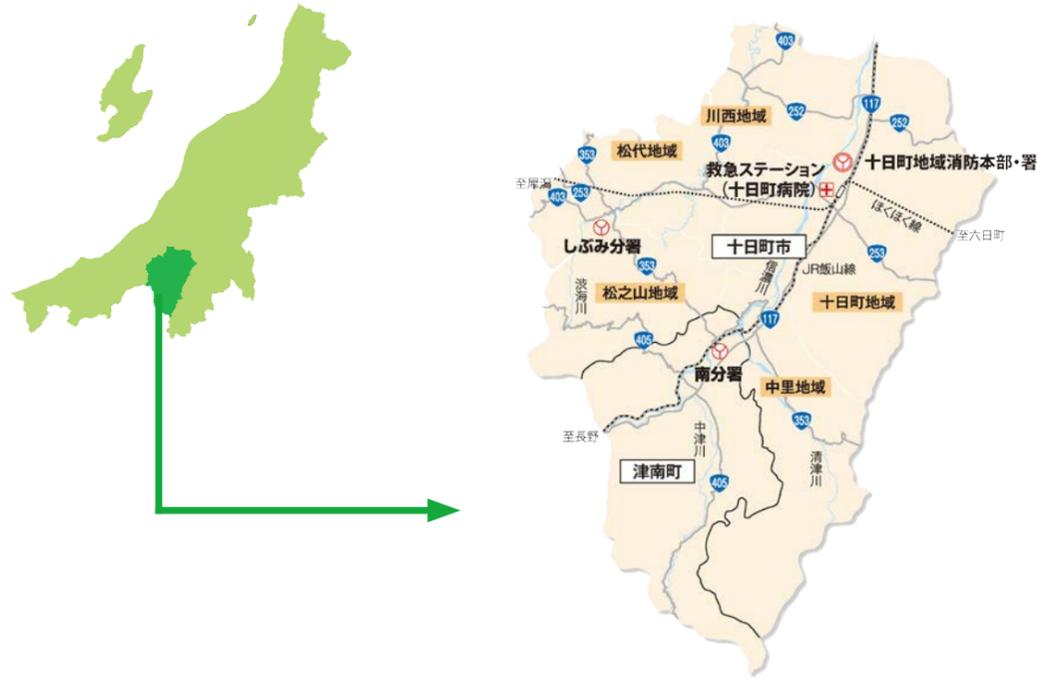
エンブレム中央上部に雪の結晶を配し、消防の象徴であるホースとロープ及び炎を周囲に配しました。

雪の結晶は、豪雪地帯である十日町地域の旧六市町村を意味し、その周囲をホースとロープで囲むことにより豪雪地帯を守る消防をアピールしています。

ロープは通常白色を使用していますが、茶色としました。これは十日町市に出土した縄文式土器の縄のイメージに合わせたもので、縄はその結び方によりちょっとしたロープのように強度を増すことから、個々の力を結び合わせることで、組織力や消防力を高めていくという思いが込められています。

十日町地域広域事務組合の概要

■管内位置図 十日町市・津南町



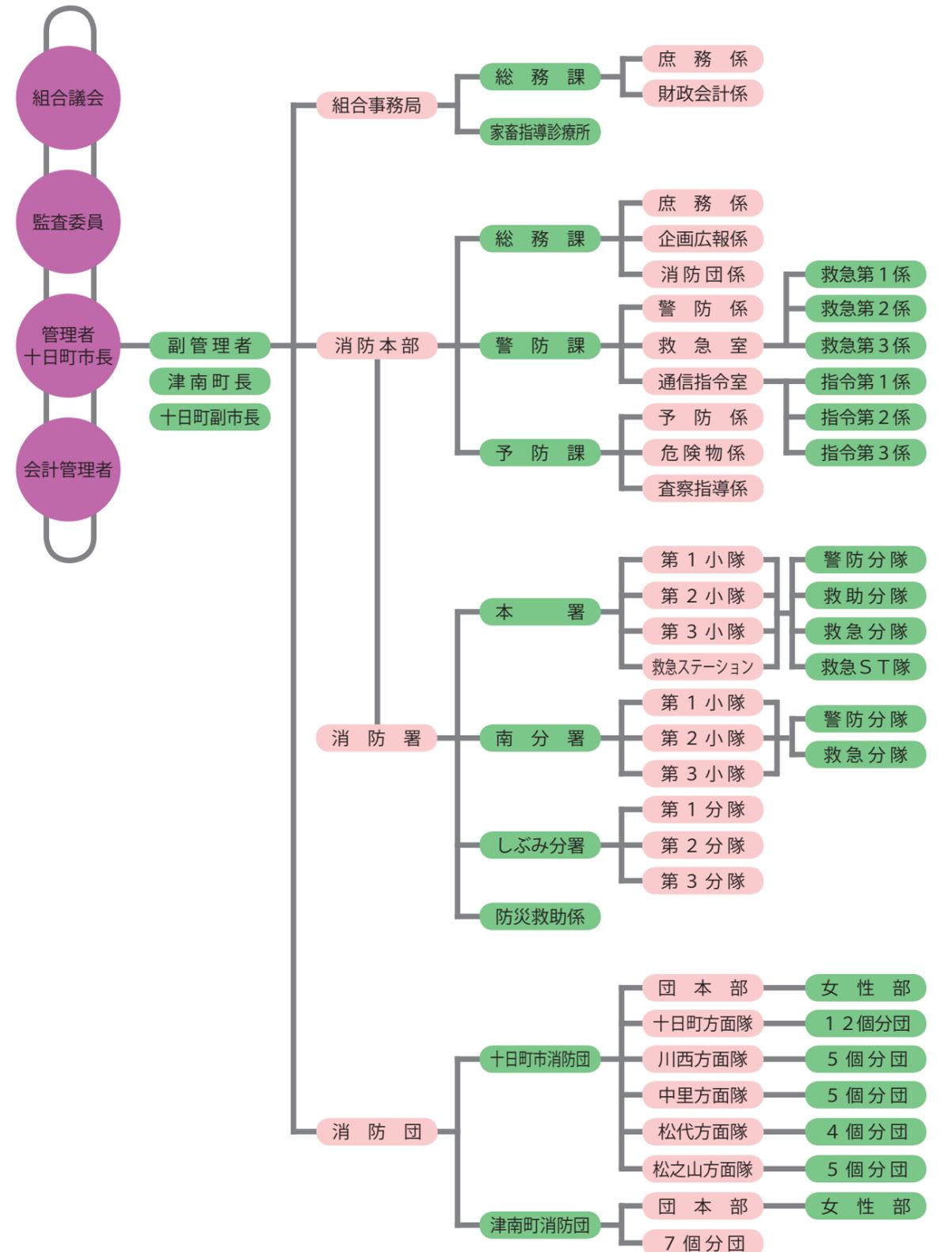
■十日町地域広域事務組合の位置図・地勢

この圏域は新潟県の南西部に位置し、東西 32km、南北 43km の広がりを持ち、総面積は 760.6km² で新潟県の 6.1% を占める地域です。周囲は長岡圏、柏崎圏、上越圏、魚沼圏及び長野県の北信圏に隣接し、圏域の東側は、魚沼圏との境界の山脈台地に標高 2,145m の苗場山を中心とする山岳地帯に連なり、西側は上越圏との境界に標高 540m の鍋立山があります。河川は、圏域の中央部を信濃川が長野県境より北に貫流し、県の主要な河川である渋海川、清津川、中津川等が流れ、圏域の最南東部は清津峡をはじめとして、上信越高原国立公園に指定されているほか、信濃川によってもたらされた雄大な河岸段丘は変化に富んで美しい自然環境をなしています。

■面積・人口・世帯数

区分	面積 (km ²)	令和 2 年国勢調査 (確定値)		平成 25 年 3 月 31 日 住民基本台帳		令和 5 年 3 月 31 日 住民基本台帳		10 年比	
		人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
十日町市	590.39	49,820	18,012	58,396	20,087	49,750	19,620	△ 8,646	△ 467
十日町地域	212.77	-	-	39,769	13,729	34,682	13,607	△ 5,087	△ 122
川西地域	73.55	-	-	7,180	2,329	5,895	2,197	△ 1,285	△ 132
中里地域	128.97	-	-	5,596	1,708	4,680	1,764	△ 916	56
松代地域	90.47	-	-	3,535	1,399	2,768	1,254	△ 767	△ 145
松之山地域	86.31	-	-	2,316	922	1,725	798	△ 591	△ 124
津南町	170.21	8,989	3,119	10,777	3,621	8,985	3,464	△ 1,792	△ 157
合計	760.60	58,809	21,131	69,173	23,708	58,735	23,084	△ 10,438	△ 624

十日町地域広域事務組合組織機構図 (令和 5 年 4 月 1 日現在)



Fire department
十日町地域消防本部・署

所在地：十日町市四日町新田 1041
 構造：【庁舎棟】鉄筋コンクリート造 4 階建
 【車庫棟】鉄骨造 2 階建
 運用開始：平成 28 年 4 月



旧消防本部（十日町市北新田）と旧西分署（十日町市霜条）を機能統合し、平成 28 年 4 月から運用開始。消防防災拠点施設として、高い耐震性を有するとともに、地球環境に配慮した地中熱利用システム、太陽光発電システムを採用しています。



太陽光発電システム



免震床内部構造



事務室



多目的ホール

通信指令室の変遷



昭和 49 年：C 型救急指令装置



平成 2 年：緊急指令装置



平成 17 年：高機能消防指令センター



エントランスホール

通信
指令室

Command room



平成 28 年：高機能消防指令センター／消防救急デジタル無線システム

訓練棟

Training building



屋外には 60 度の斜面や模擬住宅屋根を設置。屋内には、迷路・狭所での訓練や、立坑・横坑を使用した訓練等、多種多様な訓練が可能です。



狭陰空間での救出訓練



屋根からの救出訓練



マンホールからの救出訓練

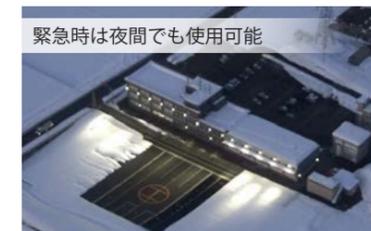


十日町地域消防ヘリポート

Fire heliport



関係機関との連携強化



緊急時は夜間でも使用可能

令和 3 年 4 月運用開始。敷地面積：6,100㎡。ドクターヘリランデブーポイントとして、年間約 50 件活用の他、新潟県防災ヘリの臨時ヘリポートとしても活用。庁舎南側の照明により夜間も使用でき、中央部には消雪パイプを設置し、冬期間での活用も可能です。

Minami branch office

南分署

所在地：中魚沼郡津南町大字下船渡乙 1097 - 1
構造：鉄骨造 4 階建
運用開始：平成 9 年 4 月



主に十日町市中里地域及び津南町を管轄。相互応援協定により、長野県栄村秋山地区の救急出動も行います。山間地が多いため、捜索、林野火災の訓練の他、雪上での消防活動にも対応できるよう訓練を重ねています。

Shibumi branch office

しぶみ分署

所在地：十日町市松之山小谷 969 - 5
構造：鉄骨造 4 階建
運用開始：平成 23 年 4 月



主に十日町市松代地域、松之山地域を管轄。日本三大薬湯と称されている松之山温泉やスキー場があるため、地域外からの観光客にも対応すべく、地域一丸となり消防活動に取り組んでいます。

訓練

Training



岳北消防本部（長野県飯山市）との合同山岳救助訓練



除雪機救助訓練



雪崩検索訓練

平成 28 年度まで、消防救助技術大会の訓練及び署内予選会は南分署裏の駐車場兼訓練場で実施されていました。

訓練

Training



松代ファミリースキー場でのリフト救助訓練



温泉街防災訓練



雪上でのドクターヘリへの搬送

First aid station
**十日町地域
 救急ステーション**
 所在地：十日町市高田町 3 丁目南 32 - 9
 (十日町病院内)
 構造：鉄筋コンクリート造
 運用開始：平成 28 年 5 月



本来、救急ステーションは、救急救命センター等を有する第三次救急医療機関に消防機関が設置しますが、当地域では、二次医療機関である新潟県立十日町病院内に合築しました。理由としては、十日町病院が「当地域の救急事案の内、7割以上の搬送先である」「ドクターヘリを必要とする重症救急事案発生時の協力体制が確立されている」「医師の現場派遣に関する協定書を締結していること」などがあります。



医師から医学的な指導を受ける

Redio station building
城山無線中継局
 所在地：十日町市堀之内城山戊 2163 - 13
 構造：鉄筋コンクリート造
 運用開始：平成 28 年 4 月

消防本部にある高機能指令センターとの緊密な情報連携及び指示伝達が行える通信ネットワークを構築するため、城山基地局及び消防救急デジタル無線を整備。電波の届かないエリアの解消や、通信の秘匿性を高め、通信には光ファイバー回線や無線 LAN を使用しています。

消防本部にある高機能指令センターとの緊密な情報連携及び指示伝達が行える通信ネットワークを構築するため、城山基地局及び消防救急デジタル無線を整備。電波の届かないエリアの解消や、通信の秘匿性を高め、通信には光ファイバー回線や無線 LAN を使用しています。



Livestok guidance clinic
家畜指導診療所
 所在地：十日町市高田町 3 丁目西 88 - 13



家畜診療、疾病予防指導、人工授精、受精卵移植、飼料設計、養豚妊娠診断、予防注射、農場衛生管理巡回指導、学校飼育動物管理指導、畜産団体事務局などの業務を行い、獣医師 3 名と事務職員 1 名の計 4 名で 365 日緊急連絡の診療体制を維持しています。



定期的に行う豚熟の予防ワクチン接種



ヤギの飼育指導 (まつのやま学園)

家畜指導診療所の歴史
 家畜指導診療所は、昭和 43 年に運営協議会(市町長、農業協同組合長、NOSAI 組合長)として十日町市と川西町を管轄する形で運営が始まり、昭和 46 年には中里村が、平成初期には津南町が加わりました。

協議会時所長：滝沢 良太 (昭和 43 年～平成 7 年)



昭和 40 年代の診療所 (本町 6 の 1 丁目) 現きもの広場の位置



初代所長 井之川 勝一 (平成 8 年～13 年)

二代所長 山口 明 (平成 14 年～)

平成 8 年 4 月 1 日に運営協議会から十日町地域広域事務組合へ編入し、翌年の 4 月 1 日には十日町地域広域事務組合が国のモデル広域指定を受け、東頸城郡の松代町、松之山町の消防事務を共同処理することとなり、それに合わせて松代町、松之山町も診療区域となりました。



超音波診断器を使つての妊娠鑑定診断

Fire brigade
十日町市消防団

「幹部としての誇り高き想いと
女性部の笑顔と広報」



団本部 実員 28人 ※令和5年4月1日現在
Fire brigade headquarters

- 団長・副団長
- 女性部「つくし」



日本消防協会特別表彰
まとい拝受 (平成15年2月7日)



女性部紙芝居



十日町方面隊 実員 799人 ※令和5年4月1日現在
Tokamachi army

「多発する自然災害に立ち向かう熱き消防魂」



十日町方面隊消防演習



青果市場で行っていた頃のポンプ操作大会



信濃川・魚野川総合水防演習

川西方面隊 実員 252人 ※令和5年4月1日現在
Kawanishi army

— 方面隊本部
— 5個分団



川西方面隊消防演習

「崇高な消防精神」



上衣を利用した担架作成訓練



中里方面隊 実員 254人 ※令和5年4月1日現在
Nakasato army

— 方面隊本部
— 5個分団

「住民の心に寄り添う消防マン」



ポンプ操作激励のエール

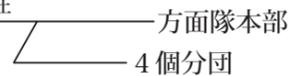


中里方面隊消防演習



松代方面隊

実員 114人 ※令和5年4月1日現在
Matsudai army

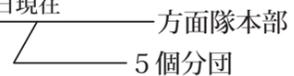


「受け継がれる消防魂」



松之山方面隊

実員 118人 ※令和5年4月1日現在
Matsunoyama army



「自然豊かな温泉郷を守る」



Fire brigade

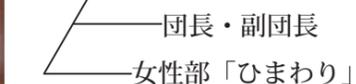
津南町消防団

「悠久に誇り高い消防団」



実員 484人 ※令和5年4月1日現在

実員 20人 ※令和5年4月1日現在
Fire brigade headquarters



本部分団 実員 100人
Headquarters

第1分団 実員 69人
1stbranch

第2分団 実員 62人
2ndbranch

第3分団 実員 84人
3rdbranch

第4分団 実員 61人
4thbranch

第5分団 実員 47人
5thbranch

第6分団 実員 61人
6thbranch



Successive generations

歴代の長

消防発足からの管理者、消防長、各団長・方面隊長の一覧。総勢96人。

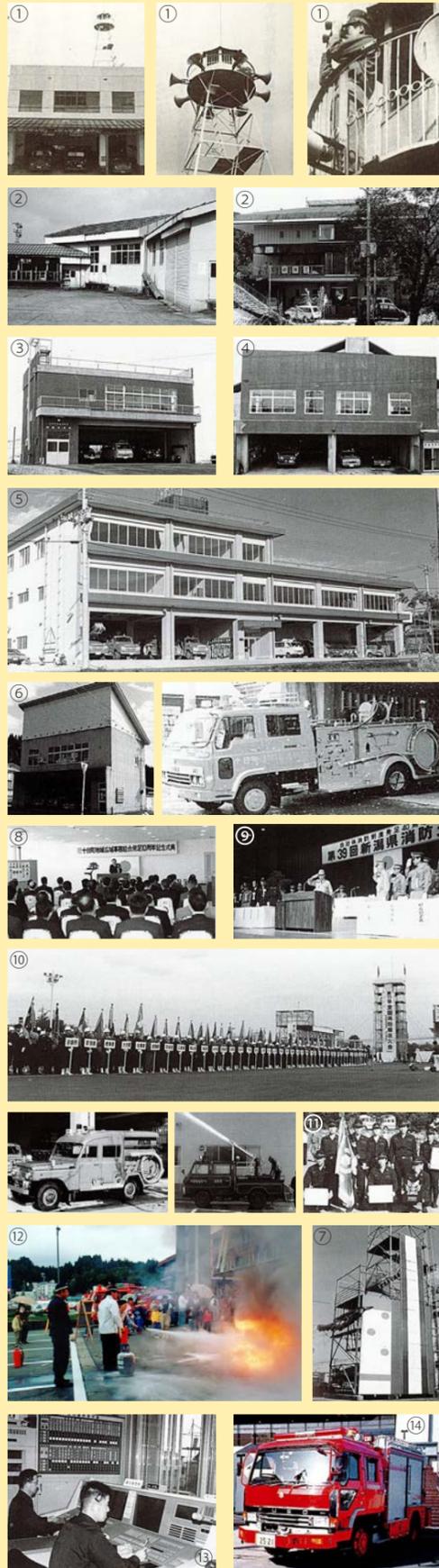
	昭27年 ~ 昭47年	昭48年	昭49年	昭50年	昭51年	昭52年	昭53年	昭54年	昭55年	昭56年	昭57年	昭58年	昭59年	昭60年	昭61年	
管理者 (十日町市長)	初代 春日 由三					二代 諸里 正典										
消防長	初代 菅村 新蔵		二代 春日 由三			三代 上村 安輝		四代 開発 一郎		五代 牧野 健						
十日町消防団長	初代 菅村 新蔵		二代 島田 善作			三代 波間 幸三		四代 樋口 朝則		五代 滝沢 光義						
川西消防団長	初代 丸山 准二		二代 富井 正治			三代 小林 申一		四代 登坂 敬恒					五代 丸山 仁吉			
中里消防団長	初代 山本 茂一		二代 鈴木 国一郎		三代 吉楽 福一郎			四代 広田 宏太郎					五代 樋口 正次			
松代消防団長	初代 柳 貞輔		二代 佐藤 行男		三代 武田 雄一郎					四代 室岡 忠俊						
松之山消防団長	初代 柳 政司			二代 邨山 正堅			三代 山岸 長佐久			四代 高橋 平八郎		五代 小野塚 健一				
津南町消防団長	初代 清水 義男		二代 涌井 米造		三代 樋口 喜一郎					四代 内山 朋次						

	昭62年	昭63年	平元年	平2年	平3年	平4年	平5年	平6年	平7年	平8年	平9年	平10年	平11年	平12年	平13年	平14年	平15年	平16年
管理者 (十日町市長)	三代 丸山 尚政							四代 本田 欣二郎							五代 滝沢 信一			
消防長	五代 牧野 健			六代 田村 猛			七代 村山 信一		八代 村山 悦司		九代 矢口 辰幸		十代 小林 勝美					
十日町消防団長	五代 滝沢 光義			六代 田村 久策			七代 上村 久夫											
川西消防団長	六代 小林 義幸						七代 清水 善三						八代 上村 英雄					
中里消防団長	五代 樋口 正次						六代 鑑野 寅治						七代 上原 正行					
松代消防団長	四代 室岡 忠俊						五代 樋口 堅一			六代 若山 幸市		七代 市川 嘉吉						
松之山消防団長	五代 小野塚 健一			六代 田辺 慎一			七代 飯塚 正和			八代 保坂 久美夫								
津南町消防団長	四代 内山 朋次		五代 石沢 武夫			六代 吉野 重男			七代 保坂 又平			八代 大口 英雄						

	平17年	平18年	平19年	平20年	平21年	平22年	平23年	平24年	平25年	平26年	平27年	平28年	平29年	平30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
管理者 (十日町市長)	六代 田口 直人					七代 関口 芳史													
消防長	十一代 藤巻 誠		十二代 江村 久		十三代 山田 真一			十四代 山田 秀和	十五代 齊藤 勝		十六代 田村 信二		十七代 根津 正一		十八代 樋口 哲生		十九代 服部 勝志		
十日町市消防団長	七代 上村 久夫				八代 富井 利明					九代 樋口 茂吉									
十日町方面隊	初代 宮澤 國一			二代 児玉 重治		三代 徳永 稔	四代 椋沢 英和		五代 村山 昭		六代 保坂 隆一	七代 高野 明			八代 齋木 政文		九代 塩川 芳和		
川西方面隊	初代 柄澤 克幸		二代 田口 信雄		三代 中條 裕基			四代 高橋 武					五代 野沢 政利		六代 上原 勝一				
中里方面隊	初代 富井 利明		二代 樋口 茂吉			三代 樋口 勝彦					四代 山本 勝久		五代 羽鳥 茂宣			六代 高橋 正敏			
松代方面隊	初代 瀬沼 伸彦					二代 小塚 光夫			三代 米持 義裕					四代 本柳 学					
松之山方面隊	初代 保坂 久美夫					二代 相澤 敏					三代 小野塚 茂			四代 関谷 敏明					
津南町消防団長	八代 大口 英雄		九代 樋口 正登			十代 大島 則雄					十一代 滝沢 満春			十二代 涌井 隆行					

50th anniversary history

十日町地域広域事務組合
50年のあゆみ
(1973 - 2023)



- 昭 35. 5. 1 十日町市消防本部・署設置
- 昭 37. 7. 7 十日町市消防本部・署庁舎竣工（高田町1丁目）①
- 昭 47. 4.20 十日町地域広域事務組合設立許可（県知事）
4市町村（十日町市、川西町、津南町、中里村）でと畜場、
福祉センター事務を共同処理②
- 昭 48. 4. 1 十日町市消防本部・署を廃止し組合消防本部・署、消
防団4団を設置
- 昭 48.10. 1 川西分遣所、津南分遣所が職員数各9人で業務開始
- 昭 48.11. 9 川西分遣所庁舎竣工（川西町霜条地内）③
- 昭 48.11.20 津南分遣所庁舎竣工（津南町正面地内）④
- 昭 49.10. 4 消防本部・署庁舎竣工（十日町市川治内後地内）⑤
- 昭 51. 3.20 中里村消防団車庫兼詰所竣工⑥
- 昭 54. 3.28 救助工作車（ニッサンコンドル）本署に配置
- 昭 56 56豪雪 最高積雪 377センチ
観測場所：森林総合研究所十日町試験地
- 昭 57. 6.11 本署に気象観測収録装置設置
- 昭 58.12. 9 本署訓練棟建設工事竣工⑦
- 昭 59. 3.25 十日町地域広域事務組合発足 10周年記念式典挙行⑧
- 昭 59 59豪雪 最高積雪 367センチ
観測場所：森林総合研究所十日町試験地
- 昭 62. 1. 1 本署に救助隊を編成
- 昭 63. 8. 7 第39回新潟県消防大会を十日町市で開催
ポンプ車操法の部で十日町市消防団優勝⑨
- 昭 63.10.12 第11回全国消防操法大会（於：横浜市）
十日町市消防団第16分団がポンプ車操法に出場⑩
- 平 1. 3.20 本署屈折はしご付消防ポンプ自動車更新
- 平 1. 8.20 第40回新潟県消防大会（於：朝日村）
小型ポンプ操法の部で中里村消防団優勝⑪
- 平 2.10.28 第1回消防ひろばを開催⑫
- 平 2.12.20 緊急情報システム、無線統制台運用開始⑬
- 平 4. 3.25 本署救助工作車更新（II型三菱ふそう8トン級）⑭
- 平 4. 8.25 消防だより「火の用心」創刊号発行⑮



- 平 5. 4. 1 完全週休二日制（週40時間勤務）実施
消防署の勤務体制を三交替制とし試行開始
- 平 5. 4. 9 十日町地域広域事務組合発足 20周年記念事業として
組合章、組合旗、マスコットマーク制定⑯
- 平 5.10. 1 十日町地域広域事務組合 20周年記念事業として記念
誌「鎮（しずめ）」発行⑰
- 平 6. 9.30 川西分遣所庁舎増改築工事竣工⑱
- 平 6.10.27 本署訓練場造成工事竣工
- 平 8. 4. 1 家畜指導診療所が組合へ編入⑲
4月から9月までの間、四市町村からの派遣職員で構
成される十日町地域広域市町村圏協議会（十日町地域
広域行政機構組合化準備室）を設置
- 平 8.10. 1 10月から翌年3月までの間、六市町村の派遣職員で構
成される企画振興係を組合総務課に置く
- 平 9. 3.24 津南分遣所を移転・新築竣工（津南町卯之木地内）⑳
- 平 9. 4. 1 津南分遣所と中里詰所の機能統合で「十日町地域消防
署南分署」となり、川西分遣所は「十日町地域消防署
西分署」と改称
東頸城郡松代、松之山両町の消防事務を共同処理する
に至り、1市4町1村で構成する新たな広域消防業務
を開始
上越地域消防事務組合から東頸城消防署松代分遣所、松
之山分遣所の施設、車両等の譲渡を受け、名称を「十日
町地域消防署松代分遣所、松之山分遣所」として編入
1本部1署2分署2分遣所、6消防団体制となる㉑
組合事務局に企画振興課を設置し大地の芸術祭を始め
とする広域行政推進に関する業務を行う
- 平 9. 9. 1 新潟県・十日町市総合防災訓練を十日町市で開催
- 平 11. 6.11 十日町ライオンズクラブから赤バイ2台（ヤマハセ
ロー 225）の寄贈を受け本署に配置㉒
- 平 12. 4. 1 と畜場を閉場
- 平 12. 6. 1 十日町大火 100周年記念総合防災訓練実施㉓
「消防史」発行㉔
- 平 16. 2. 1 十日町地域広域事務組合発足 30周年記念事業として
記念誌「鎮（しずめ）」発行㉕
- 平 16. 2.26 十日町地域メディカルコントロール協議会設立㉖
- 平 16. 7.13 平成16年7月新潟・福島豪雨
新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請、災害
派遣人員 37人㉗
- 平 16.10.23 新潟県中越地震
午後5時56分中越地方で最大震度7の地震が発生、
断続的に余震が続き、同年12月28日までの有感地震
は877回㉘



- 平 17. 4. 1 十日町市、川西町、松代町、松之山町、中里村の5市町村が合併し、新十日町市が誕生
旧市町村消防団を統合し、十日町市消防団5方面隊体制となる
- 平 17. 5.20 高性能消防指令センター（I型）運用開始²⁸
- 平 17. 6.28 松代地域集中豪雨（252mm／日）
- 平 17. 8.15 松之山天水越地内大規模土砂災害²⁹
- 平 18. 1. 6 豪雪により災害救助法適用（18豪雪）³⁰
- 平 18.10. 1 十日町市消防団女性部発足（入団14人）³¹
- 平 19. 3.31 組合事務局企画振興課を廃止
- 平 19. 4. 1 総合福祉センター（御陣荘）を津南町へ移管
- 平 19. 7.16 新潟県中越沖地震
午前10時13分上中越沖を震源とするM6.8の地震が発生し、柏崎地域を中心に大きな被害³²
- 平 20. 2.12 十日町市消防団十日町方面隊本部分団第2部第1班「防火幕」の歴史に幕を降ろし多目的災害対応班へ
- 平 20. 4. 1 初の女性消防職員採用
- 平 20. 8. 3 第59回新潟県消防大会を十日町市で開催³³
- 平 20.10.27 新潟県立十日町病院と救急現場における救急業務に関する協定書締結³⁴
- 平 21. 3.23 消防団協力事業所表示制度を導入
認定事業所への表示証交付式開催³⁵
- 平 21. 4. 1 津南町消防団女性部発足（入団10人）³⁶
- 平 21. 9.20 「消防ひろば」が20回目を迎える³⁷
- 平 23. 3.11 東日本大震災
午後2時46分宮城県沖を震源とするM9.0の地震が発生し、東北地方を中心に甚大な被害
新潟県緊急消防援助隊として出動要請、災害派遣人員延べ17人³⁸
- 平 23. 3.12 長野県北部地震
午前3時59分長野県北部を震源とするM6.7の地震が発生し、津南町と十日町市の中里、松代、松之山で大きな被害³⁹
- 平 23. 4. 1 松代・松之山分遣所を統合し「しづみ分署」を開署（十日町市松之山小谷地内）⁴⁰
- 平 23. 7.27 平成23年新潟・福島豪雨⁴¹
累計雨量市内最大（八箇峠）565mm
1時間最大雨量（小泉）121mm
- 平 24. 5.24 南魚沼市欠之上地内八箇峠トンネル工事現場爆発事故
新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請、災害派遣人数延べ34人
- 平 25. 9. 1 新潟県・十日町市総合防災訓練を十日町市で開催⁴²



- 平 25.10.28 十日町地域広域事務組合発足40周年記念事業として講演会を開催し、記念誌「鎮（しづめ）」を発行⁴³
- 平 26.11.14 消防救急デジタル無線局舎が竣工（堀之内城山地内）⁴⁴
- 平 27. 9. 7 平成27年9月関東・東北豪雨
新潟県緊急消防援助隊として茨城県常総市に出動要請、災害派遣人数延べ6人⁴⁵
- 平 27.10.31 新消防本部庁舎が竣工（四日町新田地内）
- 平 28. 3.31 旧十日町地域消防本部庁舎と十日町地域消防署西分署を閉庁⁴⁶
- 平 28. 4. 1 新消防本部庁舎、消防救急デジタル無線運用開始⁴⁷
- 平 28. 5. 2 十日町地域救急ステーション運用開始（県立十日町病院内）⁴⁸
- 平 28. 1. 2 消防署訓練棟竣工⁴⁹
- 平 28.12.22 糸魚川市駅北大火⁵⁰
新潟県広域消防相互応援協定に基づき出動要請、災害派遣消防隊1隊13人
- 平 29.11.16 本署はしご車（日野屈折はしご付消防ポンプ自動車）更新⁵¹
- 平 30. 4. 1 南分署3人増員（23人）、小隊体制とし警防分隊と救急分隊を編成、しづみ分署3人減（14人）
- 平 30. 8. 1 市内食品加工会社と災害時における物資の供給に関する協定を結ぶ
- 令 1. 7. 1 一般財団法人ドローン普及協会と「災害時における無人航空機による支援協力に関する協定」を締結⁵²
- 令 1. 9. 8 「消防ひろば」が30回目を迎える⁵³
- 令 1.11.16 令和元年東日本台風（台風19号）
新潟県緊急消防援助隊として長野市に出動要請、災害派遣人数延べ5人⁵⁴
- 令 2. 1.15 国内で初めて新型コロナウイルス感染者確認
- 令 2. 4. 7 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が7都道府県を対象区域として発出
- 令 2. 4.16 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域が全都道府県に拡大
- 令 2.11.30 十日町地域消防ヘリポート竣工
- 令 2.12. 5 消防だより「火の用心」100号発行⁵⁵
- 令 3. 4. 1 十日町地域消防ヘリポート運用開始⁵⁶
- 令 3.12. 5 一般財団法人オフロードビークル協会と「災害時におけるオフロードビークルを活用した支援協力に関する協議書」を締結⁵⁷
- 令 5. 5. 8 新型コロナウイルス感染症が第2類相当から第5類感染症に位置付けが変更される

disaster memory

災害の記憶

十日町大火 Tokamachi great fire

明治33年6月10日、当時の市街地の建物約8割にあたる752戸が焼失し、面積約25万㎡を焼き尽くした、未曾有の大火災が発生。

現在の十日町地域広域事務組合が発足する以前に発生した災害ですが、発生から120年以上と、歴史に名を残す大災害であったため、決して忘れてはいけません。



新潟県中越沖地震

Chuetsu offshore earthquake

平成19年7月16日、新潟県上中越沖を震源とするマグニチュード6.8、最大震度6強の地震が柏崎市で発生。

新潟県柏崎市、刈羽村、上越市の一部が大きな被害を受けました。十日町地域でも震度5強を観測しました。

管内の被害が少なかった当消防本部は、新潟県消防相互応援協定に基づき、柏崎市に救助隊、救急隊を速やかに派遣し、救出、救急活動を実施しました。



待機する救急車（柏崎市）



倒壊した家屋（柏崎市）



消防・警察・自衛隊が協力して救助活動を実施（柏崎市）

新潟県中越地震

Chuetsu earthquake

平成16年10月23日17時56分、新潟県中越地方を震源とするマグニチュード6.8、震源の深さ13kmの直下型の地震が発生。

十日町市（旧川西町・旧中里村・旧松代町・旧松之山を含む）でも震度6強の揺れを観測し、死者9人、重軽傷者592人、家屋の全半壊は1,200棟を超え、道路寸断、土砂災害など多大な被害を受けました。



地震の翌日に撮影された地震雲（清津大橋）



十日町新聞：平成16年10月25日



長野県北部地震

North nagano earthquake



倒壊する家屋（津南町小島地内）



大規模な土砂崩れが発生（津南町辰ノ口地内）

平成23年3月11日、未曾有の被害を出した東日本大震災の翌朝、長野県北部を震源とするマグニチュード6.7、最大震度6強の地震が発生。

長野県栄村が震度6強。十日町市、津南町で震度6弱を観測し、震源地に近い十日町市松之山地域、津南町で大きな被害を受けるとともに、雪崩や家屋倒壊など積雪期における地震の恐怖を植え付けました。

また被害の大きかった隣接する長野県栄村には津南町消防団員が救援出動しました。



地震による道路の段差



新潟県防災ヘリによる患者搬送

平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨

Niigata Fukushima heavy rain

平成 23 年 7 月 28 日から 31 日にかけて、新潟県・福島県に大きな被害をもたらした新潟福島豪雨。

なかでも、29 日午後 8 時から 9 時の間に、十日町市は新潟県観測史上の最高値を更新する 1 時間降水量 121 ミリを記録するなど、十日町市全域で中小河川が氾濫し大きな被害をもたらしました。



河川の氾濫で傾く住宅（十日町市中村地内）



河川氾濫（十日町市川原町地内）



国道 253 号線に泥水が流れ込む（十日町市小泉地内）

豪雪

Heavy snowfall

冬期間雪に覆われる当管内。平成 18 年豪雪をはじめ、23 年、24 年、25 年と災害救助法が適用となる豪雪に見舞われ、除雪中の事故、家屋倒壊、雪崩など多くの災害をもたらし、多くの消防水利は除雪をしなければ使用できず、毎日除雪の日々が続きました。

ここ数年は、小雪と豪雪とを繰り返し、降雪量の差が激しいですが、令和 3 年には松之山で 4m を超えるなど、依然として厳しい対応を強いられています。



雪崩で押し流され、転落した車両（津南町前倉地内）



屋根から張り出した雪庇にワイヤーをかけ雪庇を除去する



雪の下に埋まっている消火栓を掘り起こす

新型コロナウイルス

COVID-19



2020 年 1 月に国内初の感染が確認された新型コロナウイルス。その波は当地域にも押し寄せました。多くの職員が感染し、業務継続が困難な状況避けるため、マスクの着用、定期的な換気・清拭、飛沫防止用パーテーションを設置するなどの感染対策を図ってきました。

出動救急隊は「うつさない」「うつされない」ことを大前提とし、夏季においても感染防止を徹底するため、防護強化の服装での救急活動を強いられました。新型コロナウイルスに感染した疑いのある傷病者を搬送した事案では、隊員や車両の確実な除染を実施した上で次の出動に備える対応を行い、安全・安心な救急業務に努めました。



救急車を出迎える救助隊



オゾン水で除染をする救急隊



感染防止のため目張りをした救急車内



手順を確認しながらの脱衣



事務室受付窓口のパーテーション

50 年間の救急出動件数の推移

(昭和 48 年～令和 4 年)



Rescue technology competition

救助技術大会



全国消防救助技術大会 出場記録		
年度	大会数/開催地	種目
平成7年度	第24回/北九州市	ロープ登はん
平成8年度	第25回/札幌市	はしご登はん
平成19年度	第36回/北九州市	ロープブリッジ渡過
平成20年度	第37回/東京都	ロープ応用登はん・ほふく救助
平成24年度	第41回/東京都	ロープブリッジ渡過
平成26年度	第43回/千葉市(中止)	ロープブリッジ渡過



東北地区支部消防救助技術指導会 出場記録

年度	大会数/開催地	種目
平成6年度	第23回/福島市	ロープ応用登はん
平成7年度	第24回/仙台市	ほふく救出・ロープ登はん
平成8年度	第25回/青森市	はしご登はん
平成9年度	第26回/仙台市	はしご登はん・ロープブリッジ渡過 ロープ登はん・引揚救助・ほふく救出
平成10年度	第27回/盛岡市	引揚救助
平成11年度	第28回/仙台市	ロープ登はん
平成12年度	第29回/新潟市	ロープブリッジ渡過
平成14年度	第31回/山形市	ロープブリッジ渡過・ロープ登はん
平成15年度	第32回/仙台市	障害突破・ほふく救出
平成16年度	第33回/秋田市	ほふく救出
平成17年度	第34回/仙台市	障害突破
平成20年度	第37回/青森市(中止)	障害突破
平成21年度	第38回/仙台市	障害突破
平成24年度	第41回/鶴岡市	障害突破
平成25年度	第42回/仙台市	引揚救助
平成27年度	第44回/福島市	障害突破
平成28年度	第45回/八戸市	障害突破
令和3年度	第50回/仙台市(中止)	ロープブリッジ救出
令和4年度	第51回/新潟市	障害突破
令和5年度	第52回/鶴岡市	ロープブリッジ救出

Emergency fire response teams

緊急消防援助隊



緊急消防援助隊

緊急消防援助隊 登録状況

登録部隊	登録年月日	登録車両
消火小隊	平成19年4月	十日町ポンプ1
消火小隊	平成21年4月	十日町ポンプ2
消火小隊	平成28年4月	十日町化学1
救急小隊	平成29年4月	南救急1
救急小隊	平成30年4月	十日町救急1



新潟県大隊参集(長野県消防学校)



新潟県大隊ミーティング



緊急消防援助隊宿営状況

緊急消防援助隊 出場状況

出場年月日	出場先	隊員数
平成23年3月11日	宮城県石巻市(東日本大震災)	5人
平成23年4月1日	宮城県石巻市(東日本大震災)	4人
平成23年4月7日	宮城県石巻市(東日本大震災)	4人
平成23年4月16日	宮城県石巻市(東日本大震災)	4人
平成27年9月7日	茨城県常総市(関東・東北豪雨)	6人
令和元年11月16日	長野県長野市(台風19号)	5人



他消防本部との合同活動(宮城県石巻市)



他消防本部との合同活動(茨城県常総市)



台風の被害状況調査(長野県長野市)



昭和 59 年化学車



平成 15 年頃の
防火衣



平成初期の防火衣



平成 8 年化学車



平成 28 年
導入防火衣

消 火

江戸時代の消火方法は、火がこれ以上広がらないように、まわりの家を取り壊してしまおうというものでした。火消したちは厚い布でできた半てんを着て、水をかぶって火の粉を防ぎ、「とび口」「大のこ」などの道具を使って家を壊したといいます。歴史を経て、現在の火消しが着る服は耐熱性能が高くなり、また、建物の構造が変化してきたことと同じく、消防車、消火戦術も進化して今に至ります。



2023

50 years of change 年の変革

時間とともに、景色が変わり、人が変わり、
生活が変わり、災害が変わる。
そして、我々も変革し続ける。
それでも、消防の精神はこれからも変わらない。



写真：十日町橋

昭和 58 年救急車



救 急



平成 5 年
救急車



令和 2 年救急車

1963 年（昭和 38 年）、救急業務は法律で消防署の仕事として義務づけられ、その後市町村ごとにバラバラだった救急車の形や装備が統一されました。
1972 年（昭和 46 年）頃からの救急車は、患者を安全に運び、救急隊員が動きやすいように、さまざまな改良が施されました。このころから交通事故などが多くなり、救急車の出場は増えていきます。
1992 年（平成 4 年）、救急救命士制度が導入され、それまで救急車の任務は患者を病院に運ぶことで、救急隊員は患者に止血や酸素吸入などの応急処置しかすることができませんでしたが、救命行為に必要なさまざまな機器が備え付けられた高規格救急車を導入し、車内での救急活動が行いやすいよう、天井を高くし、車の揺れを少なくするストレッチャー等を装備しました。このように日々救急車は進化してきました。



1973



発刊にあたって

十日町地域広域事務組合
事務局長・消防長 服部 勝志

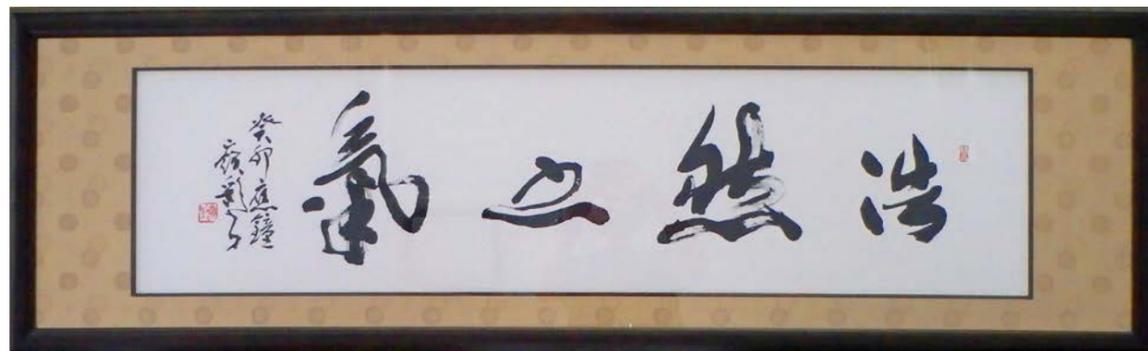
昭和 47 年 4 月 20 日に十日町市、川西町、津南町、中里村の 4 市町村で発足した十日町地域広域事務組合は、翌 48 年 4 月 1 日に消防事務を加え本格的に業務を開始しました。このたび、発足から 50 周年という節目の年を迎え記念誌を発刊できますことは、ひとえに構成市町、議会をはじめ、これまで圏域の組合行政発展のためにご尽力いただきました関係各位と地域住民の皆様のご理解、ご協力の賜物であり、深く感謝申し上げます。

近年、新型コロナウイルス感染症の流行によって、私たちの生活は大きく変わりました。各地域でのイベントの中止、市外や県外への旅行の自粛など未曾有の災害ともいえるパンデミックが長期間続きました。

また、毎年のように起こる大規模な水害・土砂崩れ、全国でも稀にみる災害級の大雪などの自然災害に対し、地域住民から十日町地域広域事務組合に寄せられる期待がさらに加速しています。

これからも、一層複雑化する災害に立ち向かうべく、あらゆる情報ツールでの防災・減災 PR 活動を強化し、安心安全な街づくりに尽力してまいりますので、ご理解とご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

十日町地域広域事務組合 50 周年を記念する書



書／宮澤嶺彩

【浩然之氣 (こうぜんのかき)】

天地の間に満ちている強い正大な気。孟子はこの言葉を用い「人は公明正大で恥じることなく何事にも屈しない道徳的な精神（気）を養うこと」が重要と説いている。

編集後記

発足 50 周年の節目を迎え、ここに記念誌を発刊できることを心より感謝いたします。今回の記念誌編集にあたり、十日町地域広域事務組合 50 年の歴史を中心に編集しました。これまでの 50 年、そしてこの先、またその先へと、先人たちから引き継いだ思いがこれからも繋がっていくよう願っております。発刊に対し、ご協力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。

令和 5 年 10 月

50 周年記念誌「鎮」

発行 十日町地域広域事務組合
〒948-0007 新潟県十日町市四日町新田 1041
TEL (025) 757-0119

編集 十日町地域消防本部総務課企画広報係
印刷 白南風社



Tokamachi wide area affairs association

1973

2023

Fire extinguishing / Rescue / First aid

50th
ANNIVERSARY

to be continued...